

《実施結果報告書》



広島平和記念式典派遣事業

2014年8月5日（火）～7日（木）

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1 ^{ページ}
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・	2 ^{ページ}
III	広島平和記念式典派遣事業日程・・・・・・・・・・	3 ^{ページ}
IV	研修レポート・・・・・・・・・・	4 ^{ページ}
	① 出発式参加者決意表明	
	② 参加者レポート	
	燕中学校 高桑 美帆	
	小池中学校 捧 晴海	
	燕北中学校 金子 浩大	
	吉田中学校 藤澤 拓也	
	分水中学校 小林 侑希哉	
	③ 引率者レポート	
	学校教育課 指導主事 尾崎 誠	
	学校教育課 指導係主査 田邊 佳代子	
	④ 平和記念式典派遣事業の様子	
V	派遣事業の概要・・・・・・・・・・	24 ^{ページ}
	(資料) 非核平和都市宣言・・・・・・・・・・	27 ^{ページ}

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

燕市は、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。この宣言は、平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願って行ったものです。

非核平和は私たち人類の普遍的な願いです。世界でただ一つの被爆国の国民として、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、後世に永遠に語り継いでいくことが大切であると実感しております。

市内の5つの中学校から生徒を広島へ派遣し、今年で7年目となります。

千羽鶴奉納、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆供養塔などの見学、被爆体験講話の受講、灯籠流しも体験してきました。その中で生徒たちは直接、目と耳で学び、肌で感じてきたことを報告会で発表していました。

これからが派遣生の活動の本番だと思います。体験して感じたことを、それぞれの学校、地域、家庭で伝えていただき、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を広げていってほしいと思います。

「悲しい過去は変えることはできないが未来は変えられる」、そのとおりだと思います。今後の派遣生の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただいたことにつきまして、心からお礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 上原 洋一

燕市では非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内の5つの中学校から生徒を広島へ派遣しております。

生徒たちは平和記念式典へ出席するとともに、各学校の生徒が平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして折った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げてきました。

広島の原因投下については、教科書にほんの数行でしか書かれていません。

教科書には載っていない、文字では伝わらないことはたくさんあります。今回、燕市内各中学校の代表として広島へ派遣された5人は、五感をフルに働かせ、あらゆるものを吸収してきてくれたことと思います。派遣生が、さまざまな体験を通して戦争、平和について感じたことは、この報告書を読んでいただければ分かるかと思います。

広島でも被爆体験を語れる方が少なくなっているとのこと。戦争と平和について考える時、そして核兵器の使用などという過ちを二度と繰り返してはならないと訴える時、世界で唯一の被爆国である日本が被爆体験をいかに伝承するかが課題になってきます。

派遣生のみなさんは、今回の体験で感じたことを大人になっても忘れないでほしいと思います。同じ世代の人たち、後輩、家族、これから出逢う人たちとその思いを共有していきましょう。

最後になりますが、派遣生のみなさんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます、あいさついたします。

広島平和記念式典派遣事業日程

事前研修 7月17日(木) 18:30 ~ 19:30

- ◇ 学校教育課長あいさつ
- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 「広島平和記念式典」派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)・当日までの準備



1日目 8月5日(火)

- ◇ 出発式(燕市役所) 7:15 ~ 7:30
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:12 ~ 14:11
- ◇ ホテル(ホテル東横イン広島平和大通) 14:15 ~ 14:30
- ◇ 平和記念公園 15:10 ~ 16:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
- ◇ 広島平和記念資料館見学 16:00 ~ 17:30
- ◇ 広島市内にて夕食 19:30 ~ 20:15
- ◇ ホテルにてミーティング 20:30 ~ 21:00



2日目 8月6日(水)

- ◇ ホテル発 7:00
- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 8:45
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(子ども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・平和の歌(合唱)
- ◇ ヒロシマの心を世界に2014見学 9:15 ~ 10:40
- ◇ 原爆死没者慰霊碑参拝 10:45 ~ 11:00
- ◇ 広島平和記念公園 13:00 ~ 14:30
 - ・ボランティアガイドによる公園内見学
- ◇ 広島城見学 15:00 ~ 16:30
- ◇ 被爆証言講話(広島市青少年センター) 17:00 ~ 18:00
- ◇ 灯籠流し参加 18:30 ~ 19:15
- ◇ 広島市内にて夕食 19:30 ~ 20:15
- ◇ ホテルにてミーティング 20:30 ~ 21:00



3日目 8月7日(木)

- ◇ ホテル出発 5:30
- ◇ 宮島周辺観光(厳島神社等) 7:50 ~ 10:00
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:04 ~ 18:05
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:10



報告会 8月23日(土)

- ◇ 報告会
 - ・教育長あいさつ
 - ・派遣概要報告
 - ・参加者より「学び」の報告
 - ・市長から参加者へねぎらいの言葉

10:00 ~ 10:45



研修レポート

①出発式参加者決意表明

②参加者レポート

燕中学校 高桑 美帆

小池中学校 捧 晴海

燕北中学校 金子 浩大

吉田中学校 藤澤 拓也

分水中学校 小林 侑希哉

③引率者レポート

学校教育課 指導主事 尾崎 誠

学校教育課 指導係主査 田邊 佳代子

④平和記念式典派遣事業の様子

平成26年度「広島平和記念式典」派遣事業出発式 参加者決意表明

燕中学校：高桑 美帆

私は今回の広島派遣で、新潟には学べない、たくさんのことを学んできたいと思います。原子爆弾が投下され69年の月日が経ちました。原爆経験者はどんどん少なくなり、またその貴重なお話を聞ける機会も少なくなってきました。だからこそ、この機会を無駄にせず、平和の尊さや命の大切さについてしっかりと学んできたいです。そして、そこで学んだことをたくさんの人に伝えられるように頑張ります。

小池中学校：捧 晴海

事前学習をして気づいたことは、色々な資料を見ても、広島や戦争のことのすべてを学ぶことはできないということです。事前学習で分からなかったことを、自分のため、そして小池中学校の全校生徒にしっかり伝えるため、よく学んできたいと思います。

燕北中学校：金子 浩大

僕は修学旅行で長崎県に行き、原爆の悲惨さや原爆の恐ろしさなどを学んできました。そこで学んできたことを生かして今回の広島平和記念式典派遣事業でさらに多くのことを学んできたいと思います。そして長崎と広島の違いを中心に学んだことを学校の人たちなど、多くの人に伝えていきたいと思っています。

吉田中学校：藤澤 拓也

僕はこの広島派遣で、教科書や本、ニュースや新聞だけでは分からない「戦争の真実」「原爆投下の真実」をしっかりと学んできたいと思います。そして、学んだことを学校の仲間や後輩、家族、自分の子ども、自分にかかわる多くの人に伝えていきたいと思っています。また、吉田中707名の代表として、非核平和をかかげる燕市の代表としての自覚と責任をもって、平和を祈念し、充実した広島派遣になるように頑張ってきてきたいと思っています。

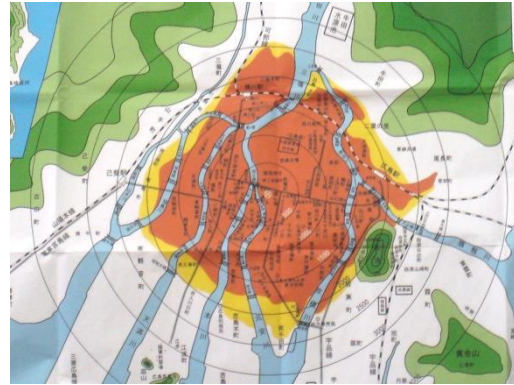
分水中学校：小林 侑希哉

今回の派遣事業では、現地でしか見られないものや、聞けないことをしっかりと見聞きしていきたいです。そして、同年代の人にはもちろん、後世の人にも、広島で学んできたことをしっかりと伝えられるようにがんばりたいです。

① 事前学習「原子爆弾の被害・惨状」

＜建物への被害＞

爆心地における爆風圧は 350 万Paに達しました(1 m²当たりの荷重が35トンとなります)。そして半径 1 キロメートル圏内では 100 万Paとなり、丈夫な鉄筋コンクリート建築以外の建造物は、爆風圧に耐えきれず全壊しました。半径 2 キロメートル圏内では 30 万Paとなり、木造家屋が全壊しました。また、爆心地近くの前爆ドームでは、ドーム部分は全体が押しつぶされるほどの衝撃を受けなかったため、爆心地付近での数少ない被爆建造物として残りました。



＜人体への被害＞

当時の広島市の人口、35 万人(推定)のうち約 14 万人が 2～4 か月以内に死亡したといわれています。爆心地～半径 500m以内での被爆者の即死・即日死率は 90%を超えました。半径 500～1000m以内では 60～70%といわれています。また生き残った人も 7 日までに半数が死亡したそうです。原因は 3 つあります。

1 つ目は熱線です。原爆の熱線には紫外線・赤外線・放射線が含まれています。そして、熱線による被害は 3.5km の距離にまで及びました。

2 つ目は熱線にも含まれる放射線です。爆心地 500m 地点では、致死量の放射線を浴びており、1 か月以内に大半が死亡しました。また、爆心地 5km 以内で放射線を浴びた被爆者は、急性放射線症を発症しました。

3 つ目は爆風です。原爆の爆風により、破壊されたガラスなどが散弾状となり全身に突き刺さって重傷を負った人もいます。また、爆風により体ごと吹き飛ばされ構造物にたたきつけられて、全身的な打撲傷を負った人もいます。このような被害を受けた人の大半は死亡しました。

② 学びの記録 「被爆者体験講話」

<講話をしてくださった方>

佐久間さん(生後9か月で被爆)

原子爆弾の威力や広島に原子爆弾が投下された理由などを詳しく語ってくれました。

<なぜ広島に原子爆弾が投下されたのか>

当時の日本は原子爆弾がなくても敗戦することは明らかだったそうです。では、どうして広島に原爆が投下されたのでしょうか。そこには2つの理由がありました。

1. 軍備施設がたくさんあったから。
2. 山に囲まれているため、決まった範囲での被害がよくわかるから。

アメリカも新兵器、原子爆弾の核分裂についての計算は完璧ではなく、なるべく詳しいデータがとりたかったのです。



<みんなに伝えたいこと>

- ・核の非人道性をもっと理解してほしい。
- ・核のない世界が来てほしい。
- ・未来を担う中高生に核のない世界を実現できるように頑張ってもらいたい。
(現在世界に核が約16300発ある。)
- ・当たり前にある身の回りの平和を大切にほしい。

③学びの報告

私は今回の広島派遣で、平和が当たり前である日常の大切さを改めて知ることが出来ました。そして、今からたった69年前までは「明日」は約束されたものではなかったことを痛感しました。

特に8月6日の平和記念式典が印象に残っています。式典には日本人だけではなく、たくさんの国の人が参加していました。また、約70の国の代表が参列していました。私は、世界中で平和についての意識が高くなっていることがとても嬉しかったです。そして、松井広島市長や安倍総理大臣などたくさんの人が平和について熱く語ってくれました。平和への誓いもとても心に響きました。

私は、これからの平和を守るための2つのヒントをもらうことが出来ました。

1つ目は、「身の回りの小さな平和を守っていくこと」です。いきなり大きな平和を達成することはできません。みんなが小さな平和を大切に、周りの人が少しでも平和に過ごせるように思いやる。世界中のすべての人がこのような意識をもてば、世界平和は達成されるのではないのでしょうか。2つ目は、「過去を知ること」です。過去は変えられないけれど、未来は変えることができます。しかし、過去を知らなければ、また同じ過ちを繰り返してしまいます。そして未来を担う私たちには、平和について考え、その大切さを知る義務があります。



私は今回広島に行くことができ、貴重な経験もすることが出来ました。少しでも多くの方が平和の尊さを知り、当り前の大切さに目を向けてほしいと思いました。世界平和が実現されることを願って…。

①事前学習「戦後の復興と平和」

＜「奇跡の復興」の要因＞

第2次世界大戦後の日本の復興は、世界でも最も成功した例であり、「奇跡の復興」とも呼ばれ世界各国から称賛されたが、その要因は何だったのか？

1. **経済の民主化**…農地改革・財閥解体・労働組合の育成を通じて、それまで貧しかった人々の生活を安定させ、努力すれば報われる社会になったこと。
2. **傾斜生産方式**…政府が石炭・鉄鋼産業を中心に支援して、これらの産業を中心にして日本経済全体を復興させていこうとしたこと。
3. **朝鮮戦争特需**…1950年に始まった朝鮮戦争で、韓国軍を助けるために出兵するアメリカ軍が必要な物資を日本から調達したため、日本製品は飛ぶように売れたこと。
4. **その他**…日本人の勤勉な国民性、円安の為替レートなど

＜日本の平和主義＞

第2次世界対戦で他の国々に重大な損害をあたえ、自らも大きな被害を受けた日本が、戦後に基本理念とした平和主義に関する規定にはどのようなものがあるか？

1. **日本国憲法前文**…恒久平和への努力
2. **日本国憲法9条**…戦争の放棄・戦力の不保持・交戦権の否認
3. **日米安全保障条約**…他国が日本の領土を攻撃したときは、日本とアメリカが共同で対処する。日本の安全と極東の国際平和の安全の維持のため、日本にアメリカ軍基地の駐留を認める。
4. **非核三原則**…日本は核兵器を「持たず、つくらず、持ちこませず」という原則。被爆国である日本が核兵器の廃絶を世界に向けて呼びかけている。

＜自衛隊と集団的自衛権＞

戦力の不保持を憲法で定めている日本が、自衛隊を持っているのはなぜか？最近、ニュースで話題になっている「集団的自衛権」とは何か？

1. 自衛隊が憲法に違反していない理由

主権国家には自衛権があり、憲法は「自衛のための必要最小限度の実力」を持つことは禁止していないというのが政府の説明。

↓

実際は、朝鮮戦争の際の国内の治安維持のためという理由で、総司令部が日本政府に指示してつくらせたもの。

2. 「集団的自衛権」とは

日本が直接攻撃を受けていなくても、アメリカなどの同盟国が武力攻撃を受けた際、自国への攻撃とみなして反撃できる権利。

↓

従来、憲法9条に違反するものとして、日本政府は「集団的自衛権」の行使を禁じてきたが、現在安倍首相は行使容認に向けた環境整備を進めていて、議論になっている。

② 学びの記録 「広島平和記念資料館」

<広島平和記念資料館とは>

被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島市の被爆前後の歩みや核時代の状況などについて紹介するために、1955年（昭和30年）8月に設置された施設です。

<特に印象に残った展示物>

1.被爆直後の様子（人形）



1945年8月6日8時15分、広島に投下された原子爆弾は地上 600mの上空で閃光を放って炸裂し、爆心地から半径2 kmにおよぶ市街地の建物は跡形もなく壊され焼きつくされました。地表面の温度は 3000～4000 度に達し、14万人の命を奪ったのです。

この人形は被爆直後の人々の様子を再現したものです。強烈な熱線で衣服は焼け焦げ、血みどろになったボロボロの衣服をわずかに身にまとい、瓦礫の街を逃げ惑ったそうです。

2.伸ちゃんの三輪車（被爆地：東白島町、爆心地からの距離：1500m）



当時3歳の鉄谷伸一ちゃんは自宅前で三輪車に乗って遊んでいる時に被爆しました。全身に火傷を負い、「水、水…」とうめきながらその日の夜に亡くなりました。

この三輪車は伸一ちゃんの遺体と一緒に庭に埋葬していたものを、被爆40年目に掘り起し、資料館に寄贈したものです。

3.滋さんの弁当箱（被爆地：中島新町、爆心地からの距離：600m）



当時13歳の折免滋さんが被爆した時におなかの下に抱えていた弁当箱です。滋さんは出征した父と兄に代わって山や竹やぶを開墾して畑を作っており、その日のお弁当の中身はその畑から初めて収穫した作物でつくったおかずで、喜んで持っていたものだということです。残念ながらそれを食べることなく亡くなってしまい、さぞ無念だったと思います。

③ 学びの報告

僕は今回広島を訪れて、初めて戦争や原爆の被害を目の当たりにしました。それは今まで授業やテレビ、映画などで何となく得た知識と比べると、あまりにも生々しく悲惨なものでした。そしてその経験の中で、自分自身がこれからやらなきゃいけない課題、周りの人たちにもやってもらいたいことが見えてきました。

戦争や原爆の歴史を風化させないために

・今回参加してみて、平和記念式典にたくさんの外国人が参列していることに驚いた。多くの国の人々が、「平和」「広島」「核兵器」に関心をもってくれることは嬉しいことだが、当事者である僕たち日本人が、もっと被爆の現実を理解し発信していくことが大切だと思う。

・戦後 69 年がたち、実際に戦争や原爆を体験した人もだんだん少なくなってきている。だからこそ自分たちの世代の人間がその歴史についてしっかりと学び、次の世代の人たちに伝えていく努力が必要。

・戦争や核兵器の恐ろしさ、悲惨さを理解した上で、これからの日本のこと、世界のことを考えてほしい。何も知らないことは、もしかすると間違った判断につながるかもしれない。

命を、生きるチャンスを大切に

・たった一発の爆弾で 14 万人の人が、苦しみながら命を奪われた。その人たちの無念さを考えると、いまの平和な時代で自由に生きている自分たちは、その境遇に感謝し、大切にしていかなければならないと思う。ニュースで自ら命を絶ったり、平気で他人を傷つけるような事件を耳にすると、むなしさというより怒りがこみあげてくる。

・「平和であることが当たり前」「生きていることが当たり前」になってはならない。平和であり続けるためにどうしたらよいのか、自分にとって与えられた時間をどう生きていくのかを考えながらこれからの生活を送っていきたいと思う。

①事前学習「長崎原爆投下について」

＜なぜ長崎に投下されたのか＞

広島に原爆が投下された後、9日の原爆投下において小倉が第1目標、そして長崎が第2目標として選定されました。

そして9日、B29「ボックス・カー」は小倉上空に達したが、前日の八幡爆撃による煙やもやのため投下を断念し、第2目標の長崎に原爆を投下しました。

＜原爆の被害＞

アメリカ軍はポツダム宣言を発表し、日本に無条件降伏を求めました。しかし、日本の対応が遅れ、アメリカは、8月6日、原子爆弾を世界ではじめて広島に投下しました。9日、アメリカは、長崎にも原爆を投下しました。

原子爆弾は、高熱と爆風で多くの死者を出しただけでなく、放射線被害によって多くの人々がのちに死亡したり、病気に悩まされました。その被害はとて大きく、投下されてから数年以内に、広島市ではおよそ20万人以上、長崎市ではおよそ14万人以上の人々の命が奪われました。今でも正確な死傷者はわかっていません。



② 学びの記録 「ヒロシマの心を世界に」

<ヒロシマの心を世界に>

8月6日に広島国際会議場で「ひろしま子ども平和の集い」を見てきました。広島に集まった子どもたちが、“核兵器や争いのない平和な世界のために” “被爆と戦争の記憶を風化させないために” “平和への願いを折り鶴に託して” のテーマに沿って、平和への想いを言葉や音楽など様々な形で発表していました。

<さんげ〜原爆歌人 正田篠枝の手帳[耳鳴り]>

「大き骨は先生ならむ そばに 小さきあたまの骨 あつまれり」
国際会議場のすぐ側にある、「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」の台座に、正田篠枝さんのこの歌が、直筆の文字で刻まれています。高校生たちが劇で彼女の思いを伝えてくれました。

<合唱「クスノキ」>

たくさん子どもたちが平和への思いを歌に込めてとても力強く歌っていました。みんながひとつになって歌っていて素晴らしかったです。歌を聴いて自分も平和への思いがさらに強くなりました。

この平和の集いは子どもから平和についてのメッセージが感じられ、それを見たり聞いたりした人たちも平和への思いが深まるような今後の核兵器廃絶にとっても重要なものだと思います。



舟入高校演劇部による演劇
「さんげ〜原爆歌人 正田篠枝の手記『耳鳴り』より」

③学びの報告

僕は、この3日間の派遣事業で原爆の悲惨さや恐ろしさ、命の尊さを今まで以上に知ることが出来ました。

広島県で原爆のことについて学び、こんなことが本当に昔あったことを改めて実感しました。

平和記念資料館では原爆の威力や、被害についての資料がたくさんありました。また、被爆者の写真や当時着ていた衣服や弁当箱などがあり、目をそむけたくなるようなものばかりでした。ですが、この事実をしっかりと自分の目で見て多くの人に伝えていかなければならないので最後までしっかりと見てきました。

被爆者の佐久間さんのお話を聞いた時は心が痛くなりました。佐久間さんは当時生後9か月というとても幼い頃に被爆しました。当時体験した話や、原爆について僕たちのために分かりやすく一生懸命に教えてくださいました。

広島平和記念式典派遣事業での体験はとても貴重でした。今回広島に行き、見たり聞いたりして、戦争や核兵器、そして平和について改めて考えることが出来ました。今の僕たちは多くの犠牲の上にあるということを改めて感じました。

世界が平和になるためにまずは僕が学んできたことをもっとたくさんの人に伝え、一人一人「平和」について考えてほしいと思いました。



① 事前学習「原子爆弾投下の背景」

1945年8月、2発の原子爆弾が広島・長崎に投下されました。敗戦色濃厚であった日本に、なぜアメリカは2発もの原子爆弾を立て続けに投下したのでしょうか。当時の世界情勢を交えながらまとめていきます。

<悪魔の兵器の実験台となった日本>

アメリカ政府の公式発表では「日本本土での地上戦（本土決戦）を避け、一刻も早く戦争を終結させるため」との説明がされています。しかし、それだけではなく、「世界で初めて実戦利用される原子爆弾の放射線被害の程度を計るため」という説もあります。2発の原子爆弾がそれぞれ違う種類の物質によってつくられていた（広島はウラン・長崎はプルトニウム）というのが説の根拠となっています。

<世界の覇者となるために>

第1次世界大戦・第2次世界大戦はもともと、ヨーロッパ諸国の植民地支配や領土問題をめぐって起こったものです。この当時、まだアメリカの力はずば抜けていたわけではなく、イギリス・フランス・ソ連・日本・アメリカなどがバランスを保っていました。しかし大戦によってバランスは崩れ、それぞれの国が自国の国力・軍事力を見せつけるために、様々な兵器がつくられていきました。その中で、アメリカはいち早く原爆の製造に取り掛かったのです。

<資本主義（アメリカ）と共産主義（ソ連）の対立>

太平洋で日本と戦ったアメリカ、ヨーロッパでドイツと戦ったソ連は、連合国の中でも超大国でした。しかし、この2国は政治の仕組みの違いなどからお互いを敵視するようになりました。上でも説明したように、アメリカは自国の軍事力をソ連に見せつけることによって、外交的にも優位に立とうとしたのです。しかしこの対立は戦後も続き、東西冷戦の原因にもなりました。

まとめ

- ・原爆投下は戦争終結の切り札だけではなく、外交戦略としても使われた。
- ・アメリカの原爆投下は、対立を生む原因になってしまった。

感想

「歴史には裏がある」と言われるように、原爆投下にもたくさんの時代背景があったことに驚きました。唯一の被爆国として、日本はもっと核兵器廃絶を訴えていかなければと思いました。

② 学びの記録 「広島平和記念式典」

被爆から 69 年目の広島平和記念式典は、雨の中で行われました。止む気配の無い雨は、原爆が投下され「水をください…水をください…」と苦しみながら亡くなっていった方への追悼のような、特別な雨のように感じました。

当日は早朝にもかかわらず、多くの参列者によって会場は埋め尽くされていました。

「この式典は、広島市にとっては 1 年で最も重要な式典なのです」
4 万 5 千人という参列者の数が、その言葉を表わしていました。

8 時、式典が開始され、原爆死没者慰霊碑にこれまでに亡くなった 29 万 2325 人の方の名前が記された名簿が納められました。その後、式辞、犠牲者に対する献花が行われました。

そして 8 時 15 分。69 年前、まさに今ここに立っている場所に、原子爆弾が投下された時間がやってきました。「黙とう」の声とともに、広島には平和の鐘の音が鳴り響き、亡くなった方への鎮魂ともいえる雨が、僕たちの肩を叩いていました。



その後、広島市長の平和宣言が行われました。松井市長は、「核兵器を保有する国の為政者の皆さんは早急に被爆地を訪れ、自ら被爆の実相を確かめてほしい」と呼びかけられました。式典には国外からも多くの来賓が出席し、EU 代表、アメリカ駐日大使など多くの核保有国の代表も出席していました。「松井市長の呼びかけに、真剣に向き合ってほしい」そう思いました。

そして、2 人の小学生がこども代表として「平和への誓い」を行いました。その言葉は、嘘偽りのない純粋な言葉でした。「Welcome to Hiroshima. 皆さんをここ広島で待っています。平和について、これからについて共に語り合い、話し合いましょう」と。

僕はこの式典が、世界の式典となり、核兵器のない平和な世界を喜ぶ式典にいつかなってほしいと思いました。そしてそのために、できることから始めようと思いました。

③学びの報告



今にも崩れそうな鉄骨、焼け焦げたレンガ、ひびの入った壁…。本物の原爆ドームを見たとき、まさに「百聞は一見にしかず」であると思いました。写真で見た美しい産業奨励館が、一発の原子爆弾でむごい姿になってしまったのかと考えると、その恐ろしさが身にしみてくるようでした。ガイドさんの案内で平和公園内を散策し、原爆ドームに最接近したとき、焼け焦げたレンガが、原子爆弾の熱線の威力をものがたり、自分の心臓が焼け焦げてしまうような感覚がしました。今でもその感覚は覚えています。

被爆体験講話では、当時まだ生まれて間もなかったという男性から話を聞きました。その男性は、原爆投下後に降った放射能を含んだ「黒い雨」によって被爆し、病気にかかったそうです。「今でも体の調子がおかしくなると、放射能のせいではないかと思ってしまう」「いつ死ぬか分からず、ずっとおびえて生きてきた」と語っておられました。戦争を知らない、この世に希望をもって生まれてきたはずの赤ちゃんの未来でさえも絶望に変えてしまう「悪魔の兵器」に対する怒りがこみ上げてきました。

僕は不思議でなりません。「人を不幸にしかできない核兵器をなぜ持つ必要があるのか」「そんなものを持ったって何になるのか」そう思います。

この広島派遣では、平和の尊さ、核兵器の無意味さ、人間の愚かさを身をもって感じました。僕は今後、感じたこの悲惨さ、平和の尊さを、自分にかかわる多くの人に伝えたいと思います。そして、犠牲となった方の上に築かれたこの平和を、自分たちの子孫に継いでいけるよう、2度と同じ過ちをくりかえさないよう、できることから始めていきたいと思います。

①事前学習「太平洋戦争時下の生活」

<戦時下の生活の始まり>

日中戦争の開始から半年後の 1938 年（昭和 13 年）に国家総動員法が成立し、必要な物資や国民を政府が自由に動かすことができるようになりました。その後、隣組の制度化や食料、衣料品の切符制によって日本は、戦争に突き進んでいきました。

<戦時下の生活>

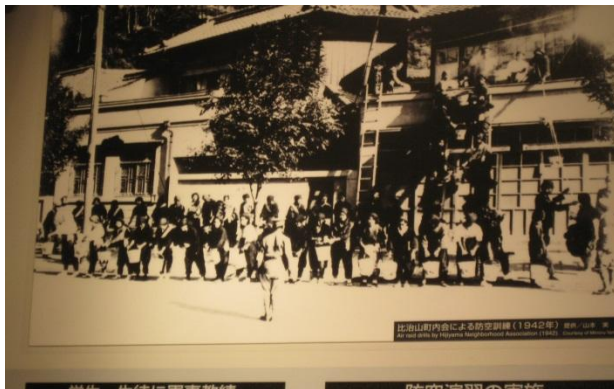
戦争が長引くと、国民の生活のすみずみまで戦争の影響がでてきました。食用になる虫や草をくふうして食べることが奨励され、男子は国民服、女子はもんぺを着るように統制されました。また、1944 年（昭和 19 年）には国民の武装が決定し、竹やり訓練も行われました。さらに言論統制により戦争に反対することもできず、国民は正確な情報を知らされないまま、勝利を信じるようになりました。

<学生の暮らし>

1941 年（昭和 16 年）、小学校は国民学校になり、皇国民（天皇が統治する国の民）を育てる教育が進められました。国語の授業が少なくなり、理科や体操や武道の授業が多くなりました。さらに、軍事教練と呼ばれる軍事訓練も行われました。小学生らは、号令にならい、整列したり、銃を構えたりしました。また、学校行事に神社参拝が増え、真冬でも足袋や靴下をはくことは許されませんでした。

1943 年（昭和 18 年）、兵士不足によって大学生や専門学校生も軍隊に入る学徒出陣が行われ、多くの大学生や専門学校生が戦場にいました。

1944 年（昭和 19 年）には、学徒勤労動員の開始に伴って、女子学生や中学生が軍事関係の工場で働かされました。また小学生は、学童疎開により地方の農村へと疎開させられました。



↑これは、1944 年（昭和 19 年）に始まった竹やり訓練の様子です。



↑これは、配給の時に使われた切符です。

② 学びの記録 「平和記念公園」

＜原爆犠牲者慰霊碑＞

平和記念公園の中央には、原爆死没者慰霊碑があり、原爆によって亡くなった29万2325人の名前が奉納されています。奥は、平和の池があります。平和の池は、原爆投下直後、水を求めて亡くなった人が多かったために、作られました。また、平和の池の中には、平和の灯があります。この灯の火は、全世界から核兵器がなくなった時に消されるそうです。



＜原爆供養塔＞

原爆供養塔には、原爆によって亡くなった人の中で、身元不明の人の遺骨が供養されています。今でも遺骨を家族に返すように努力は続いています。しかし、すでに69年も前のことなので、家族に返されることはほとんどないそうです。



＜韓国人原爆犠牲者慰霊碑＞

原爆によって亡くなったのは日本人だけではなくありません。当時広島には、5万人の韓国人がいました。そのうち3万人が原爆によって亡くなったといわれています。韓国人原爆犠牲者慰霊碑には亀の像があり、韓国のある方角に向いています。この亀の像は「亀の背中に乗って故郷に帰れるように」という意味がこめられています。



＜平和の鐘＞

平和の鐘には、世界地図や鏡が描かれています。ここに描いてある世界地図には国境が書いてありません。それは国境を書かないことで「世界が1つになり、平和になりますように」という意味があります。また、鏡には、「自己を知れ」という意味があります。



③学びの報告

今回の派遣事業は、戦争や原爆の恐ろしさや悲惨さ、命の大切さについて改めて感じることであった3日間でした。平和記念資料館では、今まで教科書で見たものより何倍も悲惨な光景を目の当たりにしました。被爆した人の写真や原爆によって亡くなった人達の遺品などが展示されていて、原爆の恐ろしさがとても伝わってきました。

また、被爆者の方からのお話では、当時の本当の広島姿を感じることができました。特に、「戦争は、家族を引き裂く」という言葉を今でも鮮明に覚えています。他では知ることができない当時の広島の様子を知ることができて、とても勉強になりました。

被爆者の方からのお話や平和祈念式典での話を聞いているうちに、やはり、僕らが行動を起こしていくことがとても大切なことに気付きました。広島の人達だけが、核兵器廃絶を訴えていても効果はありません。だからこそ今回の派遣事業で見たもの、聞いたこと、そして、感じたことを周りの人達にしっかりと伝えたいです。

戦争や核兵器による犠牲者を少しでも減らせるように、そして、1日でも早く核兵器がなくなり、平和の灯の火が消えること願って。



←この写真は、広島に原爆が落とされてからの日数と、最後の核実験からの日数が表示されている時計です。
平和記念公園の前にあります。

これは、平和の灯の写真です。→
平和の池の中にあります。



ヒロシマ平和の道

- ・ 8月6日、広島市には大雨洪水警報が発令。祈念式当日、このような雨が降るのは四十数年ぶり。傘をさしながらの参列。8時開式。傘の波で残念ながらメッセージを述べる人々すべてを直視することができなかったが、燕市の平和大使5名は、時々垣間見える姿に真剣な眼差しを向けていた。
- ・ 「ヒロシマの心を世界に2014」、オープニングで地元の舟入高等学校演劇部の演劇を観劇。あっという間の一時間半。被爆歌人、正田篠枝さんの生涯と彼女の短歌をテーマに、核兵器廃絶を訴えた。強く心を打たれた。ヒロシマの歴史を受け継ぐ若者の力強さに感服する。
- ・ 観劇を終え外に出ると、予報より早く雨が上がり、平和公園ではたくさんの蝉の鳴き声。被爆瓦礫の上に数十センチの土を敷き、建てられた平和公園。その土から無数の蝉の幼虫がかえっていることを実感。
- ・ 献花台に続く長い行列。一步一步進み近付く。献花し祈りを捧げる。碑に刻まれた「安らかに眠って下さい 過ちは 繰り返しませんが」の文字。それぞれの心に刻む。
- ・ 平和公園を案内してくださった現地ガイド沼田一彦さんの説明に聞き入る。写真を撮り、時に質問をして熱心に学んだ。被爆したアオギリも目の当たりに。御礼の挨拶をすると、「何年も案内しているが、こんなに真剣に聞いてもらったのは初めて。こちらこそ、ありがとう！」現地ガイドさんからも御礼。
- ・ 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆死没者十四万人と同数のタイルで描き出された被爆直後のヒロシマの街並みの壁画に圧倒された。『原爆の子』にも掲載された数々の体験記を活字や映像資料で学び、再び、公園から平和の道を歩く。
- ・ 広島城下、5日、6日だけ限定公開されていた中国軍管区司令部の地下通信室を見学。当時、学徒動員で死去した比治山中学校・高等学校生徒の慰霊碑に合掌。原爆投下後は、しばらく、被災者の避難所として使われており、天井は炊飯の煙の煤で真っ黒。土塁に登り、現在の高層ビル群を眺めながら、空襲に怯え過ごした人々の生活に思いを馳せる。
- ・ 青少年センターで広島県原爆被害者団体協議会副理事長、佐久間邦彦さんから講話をいただく。佐久間さんは生後、九か月で被爆。復興の中、ご家族やご自身に起こった様々な出来事を時間いっぱい伝えてくださった。「現在世界中にある一万六千三百発の原子爆弾を、被爆者が生きているうちに何としてもゼロにすること。これが私の使命です。」
- ・ 平和公園を流れる元安川で灯籠流し。各中学校・燕市の代表として、メッセージを書き込む。人波にもまれ、行列に並ぶ。今日のヒロシマを伝えるニュースキャスターを横目に、いよいよ川面へ。石段を下り、灯籠を放す。短くとも深き祈りを捧げる。
- ・ 相生橋から川面を臨み、たくさんの思いを乗せた灯火と暮れ始めた空に、ヒロシマの平和、日本の平和、そして世界の平和を祈る。

平和とは何か。その答えは人それぞれかもしれない。

ヒロシマ平和の道を歩いて改めて考えた。過去から現在、そして未来に向けて、その答えを導く子どもたちのために、教育が果たすべき役割、我々大人が果たすべき役割は大きい。

語り繋ぐこと

式典当日の早朝、私が座席を確保するために皆より一足早く会場に着いた時も、黒い雲が重く垂れこみ、大粒の雨がまっすぐに地面を叩いていました。

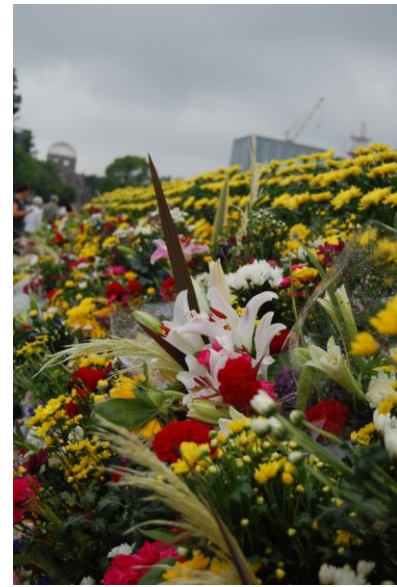
43年ぶりに雨の中で行われた広島平和記念式典。式典中ずっと、参列者の肩や背中に雨粒がばたばた落ちていました。

「原爆投下後、黒い雨が降ったんですよね。なんだか、それを思い出させるような雨ですね…」と、派遣生のひとりが言いました。

今回で2度目の引率でしたが、中学生の感受性の強さと素直な目線から発せられる言葉に、いつもドキッとします。

爆風と熱線でぼろぼろになった原爆ドームを見上げる視線、被爆体験の話にじっと聞き入る瞳、平和への願いを乗せた灯籠が流れてゆくのを見つめる穏やかな表情。

多感な時期に、広島の特異な日を体験して平和の大切さは命の尊さを身にしみて感じたことは、ずっと心に残っていくことでしょう。



今は亡き私の祖父が戦争経験者でした。子どものころ、普段は寡黙な祖父が戦争の話をしてくれたことが一度だけありました。「戦争に行った時、ソ連軍の捕虜になってしまったがシベリアへ送られたら絶対に死ぬと思い、仲間と4人で収容所から脱走した。必死で逃げたが見つかって2人は銃で撃たれて倒れ、途中森の中で別れた1人は新潟には戻って来なかった」などという話をしてくれました。そう語った祖父の兄はシベリア抑留中に亡くなっています。

被爆体験の語り部さんたちもそうですが、戦争を体験した人たちも少なくなり、体験談を聴く機会がなくなってきました。

思い出すのも辛い出来事を語っていただけたり、資料を見ることができたりすることは大変貴重なことです。今回の派遣生たちが被爆した地を訪れ、見て聴いて感じた想いを、未来の平和のために多くの人たちに繋いでいってほしいと思います。

今回も、派遣生たちの目を通していろいろなことを感じることができました。子どもたちのために、私もできることからやっていきたいと思います。

このような機会を与えていただいたことに心から感謝いたします。

平和記念式典派遣事業の様子



出発式にて



広島平和記念資料館前



原爆ドーム前



雨の式典会場



千羽鶴奉納



中国軍管区司令本部跡にて



灯籠に使う色紙を手に



灯籠流し



宮島



報告会の様子

1. 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

(2) 日程

平成26年8月5日（火）から平成26年8月7日（木）まで

(3) 主な活動内容

- 広島
- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
 - ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
 - ③原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴の奉納
 - ④被爆証言講話の受講
 - ⑤灯籠流しへの参加
 - ⑥全校生徒への報告（←事後）
- （2学期はじめ、各学校で報告会などを実施する。→報告書の提出）

(4) 行程

（広島平和記念式典派遣事業行程表のとおり）

出発式：8月5日（火）午前7時15分 燕市役所101会議室

(5) 参加者名簿

氏名	よみ	性別	学校名	学年	備考
高桑 美帆	たかくわ みほ	女	燕中学校	3	
捧 晴海	ささげ はるみ	男	小池中学校	3	
金子 浩大	かねこ こうだい	男	燕北中学校	3	
藤澤 拓也	ふじさわ たくや	男	吉田中学校	3	
小林 侑希哉	こばやし ゆきや	男	分水中学校	3	

(6) 引率者

燕市教育委員会 学校教育課 指導主事 尾崎 誠
学校教育課 指導係主査 田邊 佳代子

2. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		人数	氏名 (中学)
(1)	ミーティング司会	1名	藤澤 拓也 (吉田中)
(2)	記録(見学・訪問先等)	2名	捧 晴海 (小池中)
			小林 侑希哉 (分水中)
(3)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	金子 浩大 (燕北中)
(4.)	引率者との連絡調整	1名	高桑 美帆 (燕 中)

3. 学習の過程及び分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習(当日までに、各自が調べておく。)

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- ①日程及び資料の確認 (担当: 全員)
- ②被爆体験者への質問 (担当: 全員)
- ③太平洋戦争戦時下の生活 (担当: 小林)
- ④広島原爆投下の背景 (担当: 藤澤)
- ⑤原爆の被害・惨状 (担当: 高桑)
- ⑥戦後の復興と平和 (担当: 捧)
- ⑦長崎原爆投下について (担当: 金子)

(2) 学びの記録(参加中の体験、学習)

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- 広島での学び

- ①平和記念公園 (担当: 小林)
 - ②平和記念資料館 (担当: 捧)
 - ③ひろしま子ども平和会議等 (担当: 金子)
 - ④被爆証言講話 (担当: 高桑)
 - ⑤広島平和記念式典 (担当: 藤澤)

(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

(3) 学びの報告(まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、またこれらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

さらに、それらの内容をもとに各学校で報告会などを実施する。

広島平和記念式典事業報告会：8月23日(土) 午前10時から11時

☆提出について

以上の内容について、まとめたものを8月23日（土）報告会のときに持参。

- ①事前の学習・・・担当箇所をA4に1枚でまとめる（写真、資料挿入可）
- ②学びの記録・・・担当箇所をA4に1枚でまとめる（写真数枚）
- ③学びの報告・・・参加者全員がA4に1枚でまとめる（写真1枚）
- ④報告会の発表資料

[ワープロソフトを使う場合、次の書式を標準とする。]

- ・A4 たて
- ・明朝体 12ポイント
- ・余白（上：35mm、下：35mm、左：30mm、右：30mm）

④参考HP例

広島平和記念資料館 web site

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/index2.html>

キッズ平和ステーションヒロシマ

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/kids/index.html>

広島平和記念資料館「平和データベース」

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/database/>

4. その他

宿泊先 東横イン広島平和大通

住 所： 〒730-0026 広島県広島市中区田中町 5-15

TEL： 082-504-1045

資料 「非核平和都市宣言」 （平成18年12月25日）

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和48年(1973年)に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切に作る心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成19年4月 植樹



燕市役所正面出入口前



広島平和記念式典派遣事業実施報告書

2014年8月5日(火)～7日(木)

燕市教育委員会学校教育課